

令和6年度 活 動 報 告

はじめに

本県中学校教育は、時代の進展や社会変化に対応するべく、これまで70年以上にわたりたゆみない研鑽と実践に取り組んできた。

特に、「広島版『学びの変革』アクションプラン」に基づく授業改善や令和3年度から全面实施された学習指導要領（平成29年告示）への対応、GIGAスクール構想、働き方改革の推進、人材育成、進路指導の充実、いじめや不登校など生徒指導上の諸問題への対応、令和5年度からの新しい公立高等学校入学者選抜制度、部活動の地域移行などの諸課題に対する情報共有や意見交換を行い、今後の方向性を確立するなど、着実に歩みを進めてきた。

また、「全日中新教育ビジョン」を基に見直した「広島県公立中学校長会教育ビジョン（県中教育ビジョン）」の周知と理解を図り、示された5つの柱を基盤として、諸課題の解決に向けて着実に取り組んできた。

そうした中、不祥事の未然防止と根絶を目指して様々な取組を組織的に進めてきたが、今年度も懲戒処分となる事案が複数生起している。このことは、生徒、保護者との信頼関係、県民の公教育に対する信頼を損なうものであり、引き続き、不祥事の根絶に向けて、教職員一人一人の自覚を高め、粘り強く取組を進めていかなければならない。

広島県公立中学校長会は令和5年度から県内全ての各郡市等中学校長会の連合体となり、新しい時代に対応した、スリムで機動的な組織と運営体制の確立に重点を置きながら、その組織の機能化を図り、様々な教育課題の解決に向けて取り組んできた。

「コロナ禍後」という転換期の中、我々校長は改めて「学校からの教育改革」を基本に、「今、学校が果たすべき役割・機能は何か」、「未来を担う子供たちのために、そして、子供たちを指導する教職員のために、何をしなければならないのか」を問い続け、校長自らの主体性と責任に基づいた確固たる教育理念や将来へのビジョンを持ち、マネジメント能力を高め、英知と情熱を傾注しながら今日的教育課題の解決のために、創造的で特色ある学校づくりに邁進しなくてはならない。そのために、組織体としての県中校長会の果たすべき役割は重要であり、存在意義もより大きくなっていると実感する。

令和6年度の県中校長会は基本姿勢として「連携 結束 創造」を掲げ、次代への見通しを持って課題に取り組む「先見力」、共に支え合い、学び合い、高め合う「結束力」、諸課題の解決に向けて着実に取り組む「行動力」の3つの力を高めながら、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」を目指して取組を進めた。

本年度の取組の概要は、以下のとおりである。

1 活動方針及び活動の重点

令和6年5月27日の代議員会において、次の「活動方針」「活動の重点」が承認された。

<活動方針>

県中校長会の主体性の確立と全機能の強化を図り、将来への明確なビジョンを持ち、学習指導要領に示された理念の実現を目指し、中学校教育の振興に努める。

- (1) 「県中教育ビジョン」に示された5つの柱を基盤として、諸課題の解決に向けて着実に徹底して取り組む。
- (2) 連携・交流を基盤とし、全会員の結束を強め、共に支え合い、学び合い、高め合いながら、その力を結集し、見通しをもって教育改革を更に推し進める。

- (3) 令和5年度の四専門委員会の提言内容を踏まえて重点的に取り組むとともに、研究内容の一層の充実を図り、組織として提言ができる校長会を目指す。
- (4) 校長としての使命を自覚し、倫理観を高め、自己研鑽に努め、学校の自主性・自律性を確立するとともに、不祥事の根絶を目指し、県民の信頼に応える中学校教育の創造に努める。
- (5) 教育関係機関等との連携を密にし、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」に努める。
- (6) 広島県公立中学校長会の組織運営体制の機能化をより一層図っていく。
- (7) 令和6年度第58回中国・四国校長研究会広島大会を円滑に開催するとともに、その成果を整理し、発信していく。

<活動の重点>

改訂版「県中教育ビジョン」に示された5つの柱を基盤として、諸課題の解決に向けて着実に徹底して取り組む。

- (1) 県中学校長会の機能を充実し、活動の活性化に努めることにより、校長自らの資質の向上を目指す。
 - ① 活動方針に則り、県中学校長会及び各郡市等中学校長会の研修会及び研究大会の充実を図る。
 - ② 四専門委員会において、研究課題を設定し、研究の充実を図るとともに、提言型の研究を更に深化・充実させ、自らの資質・指導力の向上を図る。
 - ③ 「県中教育ビジョン」に基づく諸課題への取組について、会員による自己評価を行い、それを検証することで、県中学校長会の活動の充実を図る。
 - ④ 広島県公立学校校長会連合会不祥事防止対策特別委員会と連携し、不祥事根絶の取組を推進する。
 - ⑤ 各郡市等中学校長会間の連携・交流を密に行い、その運営の活性化を図る。
- (2) 「生きる力」を育む教育課程の適切な編成・実施に努める。
 - ① マネジメントサイクルを取り入れた校内研修体制の充実を図り、組織的・計画的に授業改善の取組を進める。
 - ② 全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、指導内容や指導方法の改善に努める。
 - ③ 「課題発見・解決学習」の取組を活かし、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。
 - ④ 目標に準拠した評価の精度と信頼度を高める取組を一層進め、学習評価の改善とその研修の充実を図る。
 - ⑤ 令和4年12月に改訂された生徒指導提要进行を踏まえ、生徒指導の目的を達成するために、生徒指導の実践上の4つの視点の具現化を図る。
 - ⑥ 小・中学校の連携を一層深化させるとともに、継続した生徒指導体制を確立する。
 - ⑦ 「特別の教科 道徳」を要とし、考え、議論する活動等を通して、生徒一人一人が自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための道徳教育を充実させる。
 - ⑧ 特別支援教育の視点による授業づくりを進め、適切な指導・支援を行うための校内体制を整備し、特別支援教育の充実を図る。
 - ⑨ 不登校を未然に防止する取組と不登校生徒の社会的自立を目指した指導と支援の取組を進める。
 - ⑩ いじめ防止対策推進法の趣旨を踏まえ、いじめの未然防止、早期発見、事案対処について、組織的・計画的な取組を進める。
 - ⑪ 校種間連携を図り、発達段階に応じた計画的・体系的なキャリア教育の推進に努める。

- ⑫ 一人1台端末、ICTの効果的な活用について研究し、成果を交流する。
- (3) 家庭・地域と連携・協働による「社会に開かれた教育課程」の実現を通して、教育活動の充実を図り、安全・安心で信頼される学校づくりに努める。
- ① 学校の教育目標やビジョンを地域の人々と共有し、自己評価と学校関係者評価を実施・公表して学校運営の改善に努めるとともに、創意工夫のある教育活動を展開し、学校の自主性・自律性を高め、教育の質の保証・向上を図る。
- ② 教職員の資質・指導力を向上させるとともに、能力・意欲を高める計画的な人材育成を図り、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成に努める。
- ③ 教職員としての使命を深く自覚し、倫理観を高め、服務規律を確立するため、不祥事を許さず、教育に全力を注ぐ組織風土・文化を確立するとともに、研修の充実を図る。
- ④ 教職員の危機管理意識の向上に努めるとともに、学校防災マニュアルを含む危機管理マニュアルの研究を行い、学校管理運営上の安全管理を更に推進する。
- (4) 新たな学習評価の在り方について調査・研究を行う。
- (5) 市町教育委員会の指導により組織運営体制が充実してきた各郡市等中学校長会の連合体として、広島県公立中学校長会としての活動をより充実させていく。
- (6) 多様な教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実に向けて、四専門委員会での研究実践をもとに、広島県教育委員会に提言する。
- (7) 令和6年度第58回中国・四国中学校長研究会広島大会を円滑に開催するとともに、その成果を整理し、発信していく。
- (8) 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向け、関係機関との連携や各郡市等中学校長会間の情報共有を推進する。

これらの「活動方針」「活動の重点」の具現化を図るため、定例の常任理事会・理事会・四専門委員会を中心として、令和5年度の成果と課題を踏まえながら研究実践に取り組んだ。

2 活動内容

- (1) 令和6年度広島県公立中学校長会代議員会並びに研修大会
- ① 期日・会場 令和6年5月27日(月) 広島県民文化センター
- ② 日 程
- ア 代議員会 令和5年度活動報告・決算報告、令和6年度活動計画案・予算案
- イ 研修大会
- i) 開会行事 谷川 清二会長 挨拶
広島県教育委員会 篠田 智志 教育長祝辞
久保 好寛 顧問祝辞
永年勤続校長への感謝状贈呈、新会員紹介
- ii) 代議員会報告
- iii) 県中学校長会の組織説明
- iv) 全体会 新役員紹介

四専門委員会報告及び県教委からの指導講話/村田耕一教育指導監

v) 講演 演題 「なしてわざわざ勉強しに行くん？」
講師 長崎県立大学 学長 浅田 和伸 様

(2) 第58回中国・四国中学校長研究会 広島大会 兼第74回広島県公立中学校長研究大会

- ① 期日 令和6年6月20日(水)～22日(金)
- ② 主題 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
- ③ 全体会Ⅰ 文部科学省説明 「当面する初等中等教育上の諸課題」
文部科学省初等中等教育局主任視学官 田村 学 様

④ 分科会

- ・第1分科会 — A (徳島県)
『カリキュラム・マネジメント』の推進
阿波市立阿波中学校長 岩野 伸哉
- ・第1分科会 — B (岡山県)
『主体的・対話的で深い学び』の実現
岡山市立岡北中学校長 森安 史彦
- ・第2分科会 — A (愛媛県)
「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実」
新居浜市立泉川中学校長 久保 善嗣
- ・第2分科会 — B (島根県)
「健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実」
出雲市立斐伊川西中学校長 吉谷 不美男
- ・第3分科会 — A (鳥取県)
「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実」
鳥取市立東中学校長 三橋 正文
- ・第3分科会 — B (高知県)
「自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実」
仁淀川町立仁淀中学校長 三谷 裕之
- ・第4分科会 — A (香川県)
「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成
高松市立牟礼中学校長 北堀 宏
- ・第4分科会 — B (山口県)
「学校と地域の連携・協働による『チーム学校』と『働き方改革』の実現」
山陽小野田市立竜王中学校長 小野 雅弘

⑤ 記念講演

演題 「はやぶさ2の奇跡 ～挑戦を支えた組織マネジメントとチーム作り～」
講師 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
宇宙科学研究所 教授 津田 雄一 様

(3) 広島県・広島市公立中学校長会連絡協議会

令和6年7月29日(月) 広島市教育センター
「広島県公立中学校長研究大会広島大会について」

(4) 令和6年度広島県公立中学校長新任研修会

令和6年8月1日(木) 広島市東区民文化センター

参加対象者 令和6年度新任校長

講話1「先輩校長に学ぶ」

呉市立天応学園 校長 坂口 守

講話2「2年目校長からのメッセージ」

三原市立第五中学校 校長 居川 あゆ子

協議 「学校経営計画の具現化に向けて」

講話3「新任校長に期待すること」

広島県教育委員会 乳幼児教育・生涯学習担当部長(兼) 参与 重森 栄理 様

(5) 第40回県中顧問会

令和6年8月24日(土) 広島市東区民文化センター

「令和6年度広島県公立中学校長会の活動や教育の現状について報告」

(6) 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会

令和6年10月17日(木)・18日(金) 盛岡市

(7) 第24回広島県公立学校校長会連合会研究大会

① 期日・会場 令和6年12月25日(水)

広島国際会議場

ア 講話 「広島県公立学校校長会連合会に期待すること」

広島県教育委員会教育長 篠田 智志 様

イ 地区活動報告

<ステージ報告>

・福山市地区 「福山市地区における小中高連携について」

福山市立有磨小学校長 藤井 真爾

<紙面報告>

・豊田郡地区 「大崎上島町小中高連携の取組」

広島県立大崎海星高等学校長 前田 秀幸

・神石郡地区 「神石地区における小中高連携について」

広島県立油木高等学校長 原田 豊之

ウ 専門委員会活動報告

<ステージ報告>

・生徒指導委員会 「児童生徒の自己指導能力を育む生徒指導の在り方について」
～児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性を伸ばす
生徒指導の実践～

広島県立安西高等学校長 齊藤 賢二

<紙面報告>

・学校経営委員会 「働き方改革を踏まえた業務改善の推進について」
～教職員の働き方改革に対する意識をどう高め、子供と向き
合う時間を確保するか～

広島県立日彰館高等学校長 今川 俊文

・学習指導委員会 「児童生徒の「主体的な学びの」深化に向けた指導と評価の一体化
について」

～校種間における指導と評価の一体化～

呉市立白岳中学校長 大島 美紀

・進路指導委員会 「発達段階に応じたキャリア教育の在り方」

～校種間連携を通して～

広島県立高陽高等学校長 森田 晋也

エ 特別委員会活動報告＜ステージ報告＞

・不祥事防止対策特別委員会 東広島市立寺西小学校長 小川 寛

オ 講演

「サンフレッチェ広島の志」

サンフレッチェ広島 代表取締役社長 仙田 信吾 様

(8) 常任理事会の取組（常任理事4名で構成、地区の理事から互選）

定例の常任理事会は3回開催した。

令和7年度県中学校長会役員選考について協議を行った。

(9) 理事会の取組

定例の理事会は、5回開催し、県中学校長会の取組方法や内容について協議するとともに、各地区校長会と県中学校長会のパイプ役としての役割を果たした。

理事会の主な活動は、次のとおりである。

- ① 講 話 ・広島県教育委員会等
- ② 報 告 ・情勢報告（全日中、中四国等） ・会務報告 ・県公連報告
・四専門委員会報告（学校経営、教育研究、進路指導、生徒指導）
・広島県中学校教育研究会報告 ・広島県中学校体育連盟報告
・令和6年度第58回中国・四国中学校長研究大会実行委員会報告
- ③ 議 事 ・県中学校長会の基本計画
・県中学校長会の諸事業の検討と推進
・共通課題への取組（「県中教育ビジョン」評価・検証、各大会発表等の担当地区）
・広島県公立中学校長新任研修会について
・広島県公立中学校長研究大会について
・広島県公立学校校長会連合会研究大会について
・中国・四国中学校長会研究会について
・令和5年度活動報告及び令和6年度活動計画について
・次年度の体制、行事計画等について
- ④ 情報交換 ・各郡市中学校長会の基本方針あるいは重点取組について
・業績評価及び受講奨励について
・管理職候補者の人材育成について
・卒業証書授与式及び入学式の開催日について
・生徒指導規程の見直し状況について
・統廃合、校名変更等について
・特別支援教育の推進について
・コミュニティ・スクールの実施状況について
・不祥事防止対策について

以上のように、県中学校長会主催行事の検討を行い、担当する各組織が創意工夫しながら取組を進めてきた。

(10) 不祥事防止対策特別委員会

県公連不祥事防止対策特別委員会で協議された内容を、理事会において報告するとともに、課題についての情報収集と分析、対策の検討をおこなった。

(11) 専門委員会

昨年度に引き続き、「学校経営」「教育研究」「進路指導」「生徒指導」の四専門委員会を組織し、各委員会が次の視点で研究を進め、「提言」としてまとめた。

【令和6年度研究報告】

① 学校経営委員会

学校経営委員会は、基本方針を「新たな教育課題等へ適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図るため、学校経営の諸課題について、校長のマネジメントの視点から研究を推進する。」、重点目標を「教育の質の向上を図るため、教職員一人一人の学校における『働きやすさ』や『働きがい』の醸成と、人材育成の推進に資する調査・研究を行う。」とし、研究を進めた。

まず、広島県教育委員会が策定した「学校における働き方改革取組方針」を踏まえ、その取組の4点の柱を基にしたアンケート調査を実施した。調査では、教職員の働きがい・やりがいの醸成や人材育成に係り、取り組んでいることや困っていることについて、アンケート項目を新たに設定した。

そして、調査結果をもとに、新しい時代における働き方改革を踏まえた業務改善について、広島県の中学校における現状を把握するとともに、成果や課題についての考察を行った。

さらに、今後の学校経営に向け、「学校における組織マネジメントの確立」「教職員の働き方に対する意識の醸成」「学校・教員が本来担うべき業務に専念できる環境整備のさらなる充実」「部活動指導に係る環境整備」の4点について、提言をまとめた。

ア 学校における組織マネジメントの確立

目標管理による組織マネジメントを進めるとともに、学校の働き方改革について、行政機関や地域を巻き込んだ協議を重ね、前例踏襲によらない抜本的な改革を進める。

イ 教職員の働き方に対する意識の醸成

各校での取組の成果や課題を共有しながら、教職員の「働きやすさ」と「働きがい」の両立した学校環境の整備と風土の醸成を図る。

ウ 学校・教員が本来担うべき業務に専念できる環境整備のさらなる充実

教職員の負担軽減につながる仕組みを整え、一人一人の教職員が真に働きやすい環境にしていくよう、行政機関等と連携する。

エ 部活動指導に係る環境整備

部活動の活動時間、校内組織や時程の工夫等に引き続き取り組むとともに、外部指導者の活用や地域移行に係る支援について、行政機関等と連携する。

② 教育研究委員会

本委員会では、「主体的・対話的で深い学び」の深化に向けて、「授業改善」と「評価の在り方」について研究を進めることを基本方針とし、「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善等について、また、「指導と評価の一体化」について、調査・研究を進めた。

評価部会

〈アンケート調査内容〉

- ア 「主体的に学習に取り組む態度」に係る研修について
- イ テストの実施状況について
- ウ 学習評価のうち、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
- エ 評定について
- オ 保護者への周知について
- カ 令和5年度末3学年の観点別評価（主体的に学習に取り組む態度）A及び5段階評定4・5の割合について

〈考察〉

継続的に「指導と評価の一体化」について、研修やアンケート調査を実施してきた中で、理解が深まってきているところもある。一方で、研修があまり進んでいない学校もあることがわかった。生徒の学びに沿った信頼度の高い評価を行っていくためにも、継続的な研修が必要である。また、全県で統一感のある評価の在り方とし、どの地域においても、生徒の進路実現が公平に実現するようにするためにも、教育委員会からのガイドライン等、支えとなるものが示されることが望ましい。

学力部会

〈アンケート調査内容〉

- ア 質の高い「問い」を設定する力について
- イ 単元を構想する力について
- ウ 児童生徒の学びをファシリテートする力について
- エ デジタル機器を活用する力について
- オ 「個別最適な学び」について

〈考察〉

教員に求められている4つの力のうち、「児童生徒の学びをファシリテートする力」に係る肯定的回答は、昨年度と比較して減少している。従来の授業スタイルを根本的に変える必要があるため、多くの校長が「授業観の刷新に抵抗がある教員が多い」ことを阻害要因として挙げている。また、ファシリテートする授業とはどのようなものかイメージをもっていない教員が多いことも課題として挙げられる。

「個別最適な学び」については、ICTの活用を多くの学校が挙げているが、活用状況については、市町間で大きな格差があるため、各市町の活用状況の実態を把握し、先進事例等から学びながら活用状況の改善につなげる必要がある。

③ 進路指導委員会

本委員会は、広島県公立中学校長会教育ビジョンの3「キャリア教育の充実」に基づき、研究の基本方針を、「生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育の在り方について研究を推進する」とした。

ア キャリア教育の推進に関わる調査・研究

学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子供たちの発達の段階にふさわしいキャリア教育の視点を踏まえ、県内公立中学校及び義務教育学校におけるキャリア教育の取組やその状況を把握するとともに、効果的なキャリア教育の推進・充実に資する資料を得ることを目的として実施した。

イ キャリア教育事例研究

キャリア教育のさらなる充実を目指し、各校において進路指導の充実を目指して活用できるように、四つの事例を収集した。実践事例は、小中学校等が連携した取組や各関

係団体と連携した取組も収集した。学校規模、生徒実態及び地域実態に違いはあるが、キャリア教育の充実に向けた取組の参考にしていただければ幸いである。

ウ 進路未決定者の状況

本県の3月末の進路未決定者は、平成21年度には514名であったが、各学校の生徒の心に寄り添ったきめ細かな進路指導によりその人数は年々減少してきていた。しかし、令和4年度末から増加に転じ、令和3年度末は100名、令和4年度末は117名、そして令和5年度末は149名の生徒が進路を決定することができないまま義務教育の修了を迎えており、依然として本県の重要課題の一つである。

④ 生徒指導委員会

令和6年度の生徒指導委員会の活動内容は、昨年度に引き続き、「不登校」と「SNS/インターネット」に関するアンケートを各校長先生方に依頼し、その回答を分析・考察することで校長先生自身の生徒指導力を高めるための研修などの取組を進めることができた。

全国の不登校生徒数は11年連続で増加し、それと同時に、背景要因もますます多様化・複雑化する中、児童生徒個々の状況に応じた学びを保障するような支援を実現することが望まれてきた。

本県においても、令和元年度から校内に「SSR」が設置され、不登校等生徒の社会的自立に向けた支援及び不登校の未然防止の強化・充実が図られており、「不登校等児童生徒への個に応じた組織的な支援体制の充実」についての調査状況等を報告することができた。

「SNS/インターネット」に係る諸課題の調査研究については、今年度のアンケートでは、GIGAスクール構想による「一人一台端末」の取組が実施され全生徒に一台ずつのタブレットが配付されたことによるトラブルについても調査を行い、今後のトラブルの未然防止等の一助になるよう各校でのトラブルの発生状況や内容等をまとめた。

また、令和5年度に生徒指導規程や校則等の見直しが行われたことを受けて、その状況について地域間での情報交換等を行った。

おわりに

県中校長会では、経営方針や活動方針の具現化に向けた柱を設定し、基本姿勢「結束 連携 創造」を掲げ、次代への見通しを持って課題に取り組む「先見力」、共に支え合い、学び合い、高め合う「結束力」、課題の解決に向けて着実に取り組む「行動力」の3つの力を高めながら、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」を目指して新たな教育を創造していくことを推し進めてきた。

今年度は、県内全ての公立中学校長がまとまり、令和6年度第58回中国・四国中学校長研究会広島大会を開催し、成功させることができた。大会を通して、それぞれの校長が、悩みを出し合い、共に学び合い、高め合い、励まし合うことで、つながりを大切にした校長会としてまとまることのできたものと思う。

今後も常任理事会や理事会、四専門委員会を中心に、研修及び情報交換の機会を設定し、研鑽を積むとともに、「県中教育ビジョン」を基本とした、校長自らの主体性と責任による確固たる教育理念を基にリーダーシップを発揮していく県中校長会組織を目指していきたい。